

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年12月10日
タイトル	「くわい」「農業用水」「スイゲンゼニタナゴ」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年11月6日（水）福山市立川口小学校で5年生109人に水土里ネット福山より「くわい」や「農業用水」「スイゲンゼニタナゴ」について、福山市環境保全課と水土里ネット福山より出前授業をしました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

出前授業では、多目的教室で5年生が作成した「くわい新聞」の発表を聞きました。この新聞は、福山市農協川口支店へ展示される予定となっています。

1学期からインターネットなどを利用して「くわい」に関することを調べくわいの歴史や生産地、種類、栄養やくわい料理のレシピなど様々な情報を新聞にして班ごとに発表しました。くわいがハワイへ輸出されていることなど初めて聞くこともありました。料理のレシピは「簡単で少ない材料でできるくわい料理」を紹介するなどアイデアがいっぱいの新聞でした。



新聞発表の感想では、環境保全課より「見出しを大きくした方がいい」「グラフや表、写真やイラストを用いるとわかりやすい」など具体的な新聞作りのアドバイスや「くわい農家の方にインタビューしたことを記事にすると見る人が関心をもつのでは」といったことを教えていただきました。

水土里ネット福山からは「みなさんが実際にくわいを栽培して思ったことやこれから収穫をするためにどんな準備をしているかなど実体験を記事にしてほしい」と伝えました。

その後、水土里ネット福山から農業には水が欠かせないことや農業用水路が日本全国にあり延長が地球10周分にもなることを話し、全国水土里ネット発行の「新・田舎人100号」で掲載されていた「19世紀、ヨーロッパでは一人養うのに1.5haの農地が必要だったが、日本では江戸時代すでに同じ面積で15人を養っており、これを可能にしたのが地球10周にもなる農業用水路であり人類の偉業である」という記事を話しました。

川口小学校から遠く離れた場所から取水していることや除塵機などの土地改良施設について説明すると「何で遠いところから水を取水するのかな。」「きれいな水が欲しいけえじゃないかな。」と子ども同士で意見を出し合っていました。

その農業用水路に「スイゲンゼニタナゴ」という絶滅危惧種の魚が生息していることを説明し、福山市環境保全課へバトンタッチしてスイゲンゼニタナゴが実際に泳いでいる映像を見ながら、保全のために行っている活動やみんなに保全するためにどうしたらいいか考えてほしいことなどを話しました。



地域の農業用水路にスイゲンゼニタナゴという魚が生息しているかもしれない！みんなですらないといけない！と興味を持ってくれました。

くわいの農業体験から、農業用施設や環境など様々な分野に繋がってほしいです。

スイゲンゼニタナゴのペーパークラフトを作成する予定でしたが、時間がなくなってしまい各自教室で作成することになりました。ペーパークラフトが完成すると農業用水路を覗いたらスイゲンゼニタナゴや他の魚などが生息している様子になっているので、みんながそれぞれ想像して作ってほしいと伝えました。

最後はみんなで大きな声で「ありがとうございました。」とお礼を言ってくれ、出前授業は終わりました。

最後に農業用水路はとても重要な施設ですが、転落すると大変危険なため水路転落防止の呼掛けをし災害備蓄飲料水「福山の水」を配布して、みんなで水路転落に気をつけようと約束しました。

今後は、学校のくわいの収穫、くわいの調理実習をする予定となっており、水土里ネット福山は、引き続き農業体験に協力することで21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。